

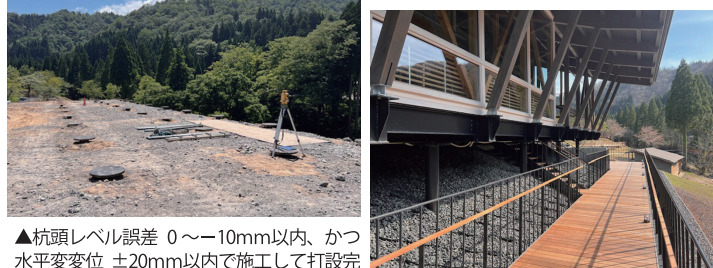
池田町 道のオアシス フォーシーズンテラス

豊かな自然に敬意を払ったECS-TP工法で施工

福井県の丹南エリア池田町に2024年4月にオープンした、観光交流施設「道のオアシス フォーシーズンテラス」。国道417号と足羽川の溪流に挟まれた自然豊かな立地に施工しました。自然に敬意を払い、基礎には鋼管杭の杭頭と鉄骨土台を直接繋結するECS-TP工法で施工。木材を使用し、崖地に対して片持ちで張り出し、より自然を体感できる建物との評価で、2024年のグッドデザインアワードを受賞しました。川のせせらぎを聞きながらの大自然に囲まれての施工でした。



▲杭を正確に打設していきます ▲杭頭接合部。ECS-TP 工法で杭と鉄骨土台を一体化することで基礎コンクリートは不要。工期も短縮できました



▲杭頭レベル誤差 0～10mm以内、かつ水平変位 ±20mm以内で施工して打設完了。杭頭がきれいに並んでいます

構造物概要		ECS-TP 工法	
名称	池田町 道のオアシス フォーシーズンテラス	杭長	10m
施工場所	福井県今立郡	本数	59set
構造	木造1階	杭先端深度	10.275m
設計支持力	425kN	施工年月日	2023年7月(17日間)
先端 N 値	34		
杭の種類	φ216.3		

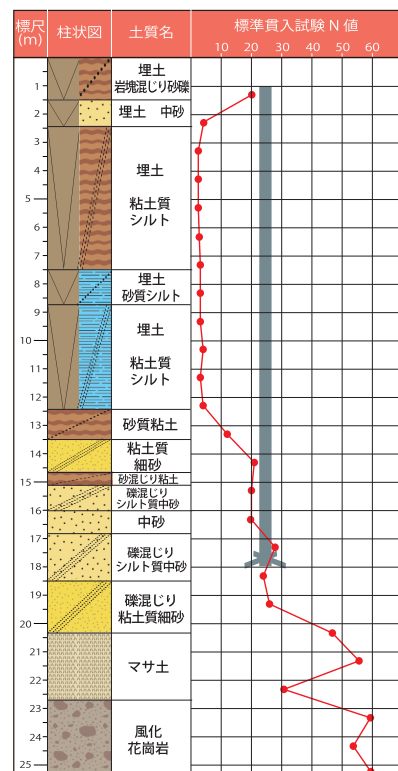
福岡市内某マンション駐車場

新興住宅街に1層2段の駐車場を施工

福岡市の香椎地区と海の中道に挟まれた、博多湾を埋め立てた人工島「福岡アイランドシティ」の新興住宅街に1層2段式の駐車場を施工しました。福岡アイランドシティは、1994年から埋立が開始され、現在も埋立継続中。住宅街なので低騒音、低振動での施工が求められます。また駐車場のため、構造上の梁を出したくないということで、基礎杭と柱を直結し基礎の省力化が図れるECS-TP工法が採用されました。この工法により、工期も短縮することができました。



ボーリング柱状図



構造物概要	ECS-TP 工法
名称	福岡市内 某マンション駐車場
施工場所	福岡県福岡市
構造	1層2段 駐車場
設計支持力	424 kN, 597 kN
先端 N 値	24
杭の種類	φ267.4, φ318.5
杭長	18m
本数	35set
杭先端深度	GL-18.2m
施工年月日	2023年7月(9日間)

株式会社 三誠 SANSEI INC.

本社 TEL: 03-3551-0211 FAX: 03-3551-0217
 ホームページ <https://sansei-inc.co.jp/> メールアドレス info@sansei-inc.co.jp
 〒104-0033 東京都中央区新川 1-8-8 アクロス新川ビル9階 編集・発行 / 株式会社 三誠 SANSEI NEWS 事務局

北海道営業所 / 東北営業所 / 新潟営業所 / 北陸出張所 / 北関東営業所 / 東京支店 / 千葉出張所 / 神奈川出張所 / 関西営業所 / 中部営業所 / 中四国営業所 / 九州営業所 / 沖縄営業所

お問い合わせは、メール info@sansei-inc.co.jp または、FAX 03-3551-0217 (担当 営業管理課 小林) まで

SANSEI NEWS

編集・発行人 / 株式会社三誠 SANSEI NEWS 事務局 本社〒104-0033 東京都中央区新川 1-8-8 アクロス新川ビル9階
 TEL: 03-3551-0211 FAX: 03-3551-0217 ホームページ <https://www.sansei-inc.co.jp>

2025 January Vol.43

30周年を迎えて

「社会的に価値ある企業」を目指し
 全社一丸でさらなる進化に向けて挑戦

株式会社三誠 代表取締役社長 丹羽 伸治

弊社の30周年は
 皆様のお力添えの賜物



明けましておめでとうございます。健康に新年を迎えたいこととお慶び申し上げます。年頭にあたり、皆様のご健康とご発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶をさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて昨年は、収束に3年以上を要した新型コロナウイルス禍から抜け出し、本格的にリスタートした矢先の元旦に能登半島地震、その後の豪雨災害と自然災害が連続しました。被災された方々に、改めて心よりのお見舞いを申し上げます。

また長期化している世界各地での戦争や紛争、気候変動、アメリカ大統領選など、私たちを取り巻く生活と経済環境が「極端に複雑に急激に」変化するさまを目の当たりにした1年でした。

弊社の創業は1995年2月。今年2月の30周年を迎えます。創業以来「山あり谷あり」の年月でしたが、皆様のお力添えとご協力により、確実に「一歩一歩、前に」と進むことができました。今後も経営理念に則り「誠心誠意・誠実」の精神で、これまで以上に「社会的に価値のある企業」を目指してまいります。

今期売上は240億円の
 目標達成の見込み



この2025年1月までの今年度第30期は、売上240億円を目指し挑んでまいりました。

経済環境の変化はもとより、建設業界は建設資材価格の高止まり、2024年問題、人手不足の状況下で、成長の継続は苦戦、おかげさまで目標の240億円に近づける状況です。昨年度29期は売上228億円でしたので105%の成長となる見込みです。

これもひとえに、常に応援して下さっているお客様と、弊社を支えていただいている協力会社様の力強いご支援の賜物でございます。重ねて感謝申し上げます。今年も皆様と共に、社会貢献と小中径回転鋼管杭の発展のために、全力を尽くしてまいります。

合い言葉は3つの「新」
 新商品・新市場・新事業



新商品として、羽根を軸径の最大3.5倍まで拡大した拡大翼杭、φ508までラインアップに加え、φ216.3、そして機械式継手ECS-MJは、製造も販売も完全に軌道に乗っております。また拡大翼杭の優位性を高める540材も順調に出荷しています。今後も引き続き、新商品の開発に全力を注いでまいります。



新市場では、エネルギー・インフラ関連事業に積極的に関わり、社会貢献すべく鋭意努力しております。さらに、昨今の製造業の内回帰の流れにより、進展している大型設備投資案件への取り組みも加速させてまいります。

新事業に関しては、4年前から「他業種・他メーカー様との相乗効果を狙った協業」を精力的に継続しております。

防壁等のフェンスや防災・砂防製品と、弊社独自の工法であるECS-TP工法をコラボさせた事業は今年度10件の成約をいただきました。また気候変動による浸水対策としての各種設備の高上げに対し、高上げ架台の鉄骨加工・建て方までを、弊社にて一括で請け負う事業も開始し、早速数件実績を作ることができました。この事業も今後さらに加速してまいります。

これら新事業はすべて、上部構造から杭までの施工を、弊社が一括請負いすることで好評をいただいております。

三誠HD3社体で建設業界に新風を吹き込む

三誠ホールディングスには、弊社(株)三誠をはじめ、(株)三誠エンジニアリングと(株)三誠AIR断震システムがあり、3社一

ステムの兄弟企業があり、3社一体となり、建設業界にイノベーションを起こし続けたいと努力しております。

三誠エンジニアリングは、構造一級建築士を3名有しており、杭の設計はもろんのこと、上部構造を含めた一貫的な技術フォロワーも行うことにより、建設業界における存在感を高めてまいります。

三誠AIR断震システムは、木造住宅を対象に免震工法を開発し、免震構造協会から設計法として技術評価書を取得。また免震建物の履歴観測機器として「オビレコ」を開発しリリースしました。さらに、彫刻など美術品やセミコン製造機器を地震から守る、免震機器設計施工も行っております。

新たな一年を迎え、三誠の社是の「つとめ、何事にも積極的にチャレンジし誠心・誠意・誠実に社会に貢献する」ことを、改めて皆様にお約束いたします。

今年の干支は巳年。蛇が脱皮を繰り返すことから「復活と再生」の年と言われております。弊社も、30周年という節目の年を迎え、さらなる進化に向けて邁進いたします。本年もECSパイル並びに弊社社員一同をご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

Topics

弊社30周年
 記念祝賀会開催



昨年11月9日、弊社は30周年の節目を迎え、社員旅行に合わせ、30周年記念祝賀会を鳥羽国際ホテルにて実施いたしました。祝賀会は、全国から集まった社員が揃いの陣羽織を着用し、三輪会長、丹羽社長の挨拶に始まり、引き続きの陣羽織を着用し、この日のための打ち上げ花火の鑑賞で幕を閉じ、創立31年目の新たなスタートを切りました。

交流会では各部署で作成したビデオメッセージの上映や、2040年代社員5名による丹羽社長が加わった6名による「ひげダンス」で会場が大いに沸きました。若手社員2名による力強い社員宣誓、この日のための打ち上げ花火の鑑賞で幕を閉じ、創立31年目の新たなスタートを切りました。

過去最大人数の160名の参加で「耐震技術」の最先端情報を学ぶ

構造設計者の方々と共に学びながら強い絆をつくるイベント



▲新しい会場に160名参加の大盛況

三誠セミナーは、2010年7月に第1回を開催しました。初回の講師は東大教授(当時)の神田順先生。講演テーマは「構造設計と耐震安全性」構造安全の社会的合意に向けて、22名の方々に参加いただきました。弊社は1995年の創業以来約15年は、皆様のおかげで順調に業績を伸ばし続けることができました。しかし、2008年のリーマンショックの影響で売上が伸び悩む事態に直面しましたが、このときの打開策のひとつが、三誠セミナーの立ち上げ。弊社の重要なパートナーである構造設計者の方々と強力な絆をつくり、長期的な安定経営の基盤を固めることが目的でした。パートナーの皆様と間にWin-Winの関係構築のために、弊社の利益を還元し、皆様が必要とする「構造」に関するアカデミックな最新情報や、世界的な技術情報をお届けする場として、継続的に講演会活動を行うことを決定しました。

宮本先生は、1979年に京都大学工学部建築学科を卒業後、鹿島建設技術研究所 鹿島建設小堀研究室、株式会社小堀鑛二研究所と一貫して耐震技術、制震技術、免震技術の研究開発を行ってきた、地震に強い建物をつくり上げるための技術の専門家です。2008年から大阪大学教授、2021年から現在まで福井工業大学で教鞭を執っていらっしゃいます。大阪大学の教授時代には宮本研究室で、大阪の「上町断層帯地震」の揺れ予測の調査研究、2011年の東日本大震災では、大阪の揺れと大阪府咲洲庁舎の長周期振動への対策の調査研究、2016年の熊本地震では益城町調査の地震応答解析モデルの調査研究を行っています。また、令和6年能登半島地震では、地震の約2週間後に日本免震構造協会の現地調査団の一員として、金沢市、七尾市の免震建物の現地調査を行いました。お話しの中で最も印象的だったのは、震度6強の地震に見舞われた石川県七尾市の恵寿総合病院のケースです。同病院は2013年竣工の免震構造の本館と耐震構造の2つの棟で構成されています。今回の地震で耐震構造の棟では、天井がはがれたり、医療機器転倒や落下が発生し、治療に支障をきたすこともありましたが、免震構造の本館ではほとんど被害がなく、被害のあった病棟の患者を本館に移すことで治療継続したそうです。免震構造が、地震被害の最小化に効果的であることを実証する事例でした。

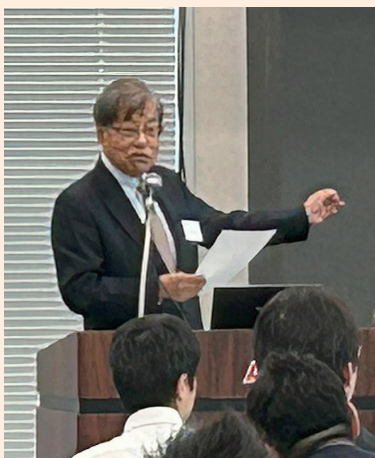


▲懇親会で「月面に三誠の杭!」と宣言する、弊社社長の丹羽伸治

令和6年能登半島地震では免震構造の病院は大きな被害を免れた。今回の講師は、大阪大学名誉教授で、現在福井工業大学教授として免震技術の研究・講義を行っている宮本裕司先生。講演タイトルは『大地震の揺れに備える耐震技術』2024能登半島地震と免震応答」という、昨年元日に発生した「令和6年能登半島地震」の現地調査報告を含む、過去の大型地震と免震技術の発展に関する大変興味深いお話でした。



▲講演する宮本裕司先生



▲開会挨拶をする三誠 HD の三輪富成会長



▲懇親会場での宮本先生と三輪会長

地震に強い社会をつくるために重要な4つの「知」を基本に考える

先生はまた、今更いつ起きても不思議ではない巨大地震に対し、「現状で基準としても地震動を上回ることは確実に、免震・制震を施しているも被害を受けることは避けられない。その巨大地震に対して備えをしておくことが大切だ。そのため必要となるのが構造設計者の力だ」と強調しました。そして、次の「4つの知が、地震に強い社会をつくるために必要なことだ」ということです。

- ①地震の揺れを知る―海溝型Ⅱ長周期波、活断層Ⅱパルス波
- ②地盤の3つの地を知る(地歴、地形、地質)
- ③建物の揺れを知る(地盤・建物の連成、被害の想定)
- ④地震対策に「知恵」―免震・制震、家族・地域連携。



▲おいしい料理がたくさん並ぶ

講演の最後は、福井工業大学が全学科で取り組んでいる、月に人類の拠点をつくる「アルテミス計画」という壮大な計画。月面構造物を支持する基礎の設計と施工をテーマとして研究し、月面に建物を建設するという夢のあるお話でした。講演後の懇親会の冒頭に、弊社社長の丹羽は「月面に建物を建てる際には、三誠の杭を月の地盤に打ち込みます」と高らかに宣言。会場のあちこちで話の輪ができてあがった懇親会となりました。

北陸出張所を移転しました 所員2名を増員しての新・出発です

北陸出張所は、2013年に金沢市北安江に開所してから12周年を迎えました。これを機に、昨年9月2日に旧事務所から徒歩10分程度の新事務所に移転いたしました。業務を開始いたしました。これもひとえに皆様方の温かいご支援ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

新事務所は金沢駅から北西に延びる、幅50mの「けやき大通り」に面し、駅から徒歩5分というアクセスのよい場所です。移転に伴い、営業1名、工事1名の2名を増員し、計5名の新体制でのスタートとなりました。

北陸、特に石川県は昨年元日に発生した「令和6年能登半島地震」で大きな被害を受け、あちこちで復興工事が行われています。新体制でパワーアップいたしましたので、より深く地域に根差し、北陸の地にこれまで以上に貢献できるように努力いたします。また、復興工事でお役に立てるように所員一同尽力する所存です。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

北陸出張所所長：金井 麻純



<新事務所>
〒920-0031
石川県金沢市広岡二丁目13番23号 AGSビル5階
TEL：076-231-0750 (変更なし)
FAX：076-231-0751 (変更なし)
JR北陸本線「金沢駅」徒歩5分
移転日 2024年9月2日

G-ECS パイル、N-ECS パイルの CAD 図を弊社ホームページで公開しました。

この度、お客様からのご要望にお応えしまして、G-ECSパイルとN-ECSパイルのCADデータを弊社ホームページの下記URLで公開いたしました。

このURLをクリックすると「CATALOG DOWNLOAD」ページになります。画面を下に移動すると「G-ECS PILE」、「N-ECS PILE」関係資料が出てきます。それぞれの最後に「CADデータ (DXF)」「CADデータ (DWG)」の2つのファイル形式でCADデータを置きました。構造図の作成の際などに是非ご利用いただけますようお願い申し上げます。

(ここに掲載した図はG-ECSパイルのCADデータです)

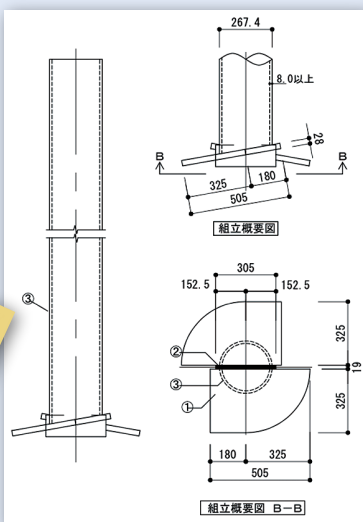
<https://sansei-inc.co.jp/support/catalog/>



(QRコードはこちら→)

このページでは下記資料もダウンロード可能です。必要に応じてご利用下さい。

- ・建設業許可証
- ・認定書、性能評価書
- ・商品カタログ
- ・技術資料
- ・ECS-TP用計算ツール



現場代理人として必要なのは見えないものを見抜く力

東日本工事部 工事課 岩間 宏樹 41歳



生まれは青森県三沢市。農業高校の機械科で車や機械の整備、危険物の取り扱いなどを学びました。2年少し前に三誠に巡り会い、会社と鋼管杭の明るい未来を感じたことで入社、現在は現場代理人として勤務しています。現場代理人は、毎日現場に出向き、安全、品質、工程の管理をしています。事故なく、高品質の施工を、期日通りに完成させるのが私の仕事。現場を円滑に回すために、何より重要なのはコミュニケーション。社内の関係部署の担当者はもちろん、元請様、施工業者様などの関係者と、完工後の理想的なイメージを共有することが大切なので、現場調整では慎重に言葉を選び、こちらの考えが的確に伝わるように努力しています。傾聴の姿勢、適切な受け返しを意識することが、相手の共感を得るために必要なこと。人の気持ちに届いたと実感できたときには、本当に嬉しく感じます。

小笠原諸島の父島で作業をしたときには、離島という限られた条件での、人員手配には工夫が必要でした。島の人は独特の時間軸で動いているので、「計画性」より「柔軟性」をもって対応することが重要だと痛感しました。私たちの仕事をひと言でいうと「見えないものを見抜く」こと。杭を打ち込む土の中を予測することだけでなく、見えない危険を予測しておくことが大切です。会社の顔として現場に立ち、トラブル処理を行い、完工まで自配りを続けることで、責任感が強くなったように感じます。仕事が自分を成長させてくれていると思います。

工事完了後の関係者からの「ありがとう」が身にしみる

西日本支店 中四国営業所 営業課 木津田 壮孝 (まきただ ますたけ) 38歳



広島県三次市に生まれ、広島工業大学で環境デザインを学び、広島駅そばに事務所を構える三誠の中四国営業所に勤務している生粋の広島人です。三誠の入社は1年半ほど前ですが、前職では「地面から上の建築」に携わり、現在は地面の下の杭の営業を行っています。

営業の主な仕事は、設計事務所様やゼネコン様、販売店様への鋼管杭のPR、新製品の紹介です。最終的には、施主様にメリットのある提案を、設計事務所様、ゼネコン様ができるようにサポートすることが肝心。図面への折込が完了し、無事に工事打合せを行った工事課に引き継ぎますが、そこで終わりではありません。工事初日には現場立ち会いをし、予定通り工事が完了することを見守ることで、ようやく一仕事が終わります。杭の仕事は長期間残る建物を支える、一番大切な部分に関わることが魅力だと感じています。工事が終わると、私たちの杭はすべて土の中ですが、設計の方やゼネコンの監督さんから「ありがとう」と言っていたときに、やりがいを感じます。これまでで最も記憶に残っているのは、極狭小地での施工。事前に打ち合わせて隣接する建物との距離を確かめたつもりでしたが、施工段階で上部までちゃんと確認できておらず、当たった心配が起きました。しかし、皆の協力の結果数ミリの離隔で施工できました。今後起こるであろう南海トラフなどの大地震でも、「三誠の杭のおかげで被害が少なかった」と言われるように努力していこうと思っています。



第1回 ◆ 三誠 パーソン 図鑑